

罷工後去る十月二十八日より八時間制に關し罷業仕り候は豫て御承知の事と存じ候  
 抑々本舎に於ける罷工の因は十月十一日同制度實施の意嚮あるにや舎主は工場四監督  
 を介し同制度の研究を成さしむべく各課より一般投票を以て二十三名の委員を擧げ工  
 場内に於て終業後研究討議したる處同制度は最早研究の餘地なく實施の時なりと衆議  
 一決したり、時恰も秀英舎及び築地活版の兩社にては十月二十六日より同制度を實施  
 すべき旨を非公式に發表さるるに至り茲に於て本舎工場員も研究委員を更に代表委員  
 に撰任し同制度の實施を舎主に逼りたり是より先き日本印刷工組合信友會より十月十  
 七日附を以て東京印刷同業組合に對し同制度の實施を提議したる處印刷同業組合にて  
 は數次秘密會議を開催し理論的にも實際的にも實行可能なるに拘らず該問題を否決し  
 たる結果舎主も強硬に組合の決議に藉口して實施せず止むなく工場員全部は舎主、四  
 監督了解の上本問題解決まで個々の復舎を許さざるを條件として十月二十八日同盟  
 罷業を敢行したり、亞で隨所に八時間實施要求の罷工頻發し斯くして三秀舎對工場員  
 の問題は端なくも信友會對印刷同業組合の對峙問題を化し信友會は八時間労働制提議  
 事情を社會公衆に訴へ印刷協會は信友會員を誑り更に新聞紙上に不雇傭を公表するに  
 至り事態益々紛糾し是を一般の批判に想へたる處八時間労働制是認の聲は翕然として  
 起り單に同工而已ならず在らゆる方面より深甚なる聲援と多大の同情を寄與せらるる吾  
 等は如斯熾烈なる激勵と期待に副はん爲め活版印刷工として將亦信友會員として筆に  
 舌に労働の八時間、教育の八時間、休養の八時間を絶叫すると共に同業組合と數回折衝  
 を重ね二句に亘り全力を擧げて奮闘努力したるも資本同盟の暴力、奸策反つて功を奏  
 し、印刷同業組合役員と同氣俱樂部に於ける會見を最後に吾等の要求は遂に蹂躪せら  
 れ遺憾ながら各社聯合運動を解くの止むなきに至り慘憺たる敗衄を來し諸彦の期待に  
 背き慚愧極まりなく血涙を吞んで罷工經過の一端を述べて不明を謝し御聲援を辱ふし  
 たる諸彦の御諒恕を仰ぎ度如斯に御座候 敬具

大正八年十一月十五日

三秀舎

罷工殘務委員

會計報告

收入之部		支出之部	
一金百拾九圓七拾錢	工場員離金	一金貳圓	精巧社職員御一同
一金拾圓	某 兩 氏	一金八圓	自由労働組合
一金壹圓	某 氏	一元眞社職員	御一同
一金五圓	某 氏	一元眞社職員	御一同
一金五拾錢	石井武明殿	總計金五百七拾貳圓貳拾五錢	信友會より受領
一金貳拾五圓	博文館大新會殿	總收入高	
一金拾圓	錦光堂印刷所		
一金壹圓	職員八名殿		
一金貳圓	小野福太郎殿		
一金七圓拾錢	龜田、鈴木兩氏		
一金九圓	兵林館職員御一同		
一金五拾錢	共榮社職員御一同		
一金壹圓	上田セキ殿		
一金六圓參拾錢	大石彌三郎殿		
一金拾壹圓	大成舍職員御一同		
一金壹圓	中外印刷所内印刷		
一金貳圓	部鉛版部鑄造部		
一金五圓	小池長太郎殿		
一金參圓五拾錢	伊藤初五郎殿		
一金七圓	有志十名殿		
一金七圓	豐盛堂、省三堂、健		
一金拾圓	植堂、家田、今成各		
	印刷所殿		
	大倉印刷所内		
	職員御一同		
	自啓會々員御一同		
	此金殘務整理委員負擔		
	差引金拾圓		
	不		
	足		

追伸 本來罷工經過顛末拜趨の上親しく可申述答の處乍略儀書中を以て御報告仕候  
 尙罷工破り及最後迄奮闘したる詳細なる人名録は信友會本部に保存致し置き候間  
 此段御留意相成度候